

—
次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(作問の都合上、本文の小見出し、および一部分を省略してあります。)

人間の行為や態度は本来一時的で、不確かです。にもかかわらず、けっこう、予測可能でもあります。たぶん、明日も授業はおこなわれるし、電車はほぼ時刻表どおりに駅に着くし、お母さんは勉強しろとうるさいだろうと予想して、翌日になったら、やはり予想どおりだった。それが日常でしょう。人は習慣になっていることをくり返しているだけだ、と結論できそうなぐらいです。

人間はかなりおおざっぱで、ほんとうは「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」^①のはずなのに、「今日も川の流れは昨日と同じ」と認識します。「まえにあった○○のパターンだな」とか「△△系じゃん」というふうにです。社会学ではルイ^aケイ化と呼ぶことがあります。日常感覚では、決めつけと呼んだ方がぴったりかもしれません。

多くの人が同じように、適当におおざっぱにものごとを決めつけ、そのものごとに過去と同じパターンで対処しても、だいたいほどほどの協力がなされ、くり返されるものなのでしょう。そうであっても、人の行為や態度が不確かであることに変わりありません。

それは、協力を一時的なもので終わらせたくない人です。

たとえば、恋人^{こいびと}のことが好きで好きで仕方ない人は、相手がずっと恋人としてふるまう協力をしてほしいと強く望むでしょう。明日になったら、いや、ほんの一瞬^{しゅん}後には、恋人としてふるまってくれなくなるかも、などと

考えたら、不安でたまらなくなるはずです。だから、あの手この手で、こちらとつきあうという協力を継続^{けい}してもらおうとするでしょう。ひんぱんにメールする、恋人の誕生日には高価な贈^{おく}り物をする、恋人が気に入るような服装に変える、などなど、いろんな努力を重ねることでしょう。

しかし、一般的^{はん}には、集団・組織こそ、持続可能な協力をもっとも必要とします。以下、集団と組織はどのようにして協力の持続可能性を高めているのかをみていきます。

協力を持続可能なものにするための努力と工夫^{くふう}を重ねてきたのは、集団のリーダー的存在でしょう。とくに会社・企業^きのような組織は、協力が一時的で不確かなのは困ります。

社員が明日出社しない可能性、出社しても仕事をしない可能性、仕事はしているようにみえるものの、じつは指示を守っていない可能性、客や取引先との約束を守らない可能性、などなど、現実起きてしまうと、会社として存続は不可能でしょう。

あなたは、ネット通販^{はん}で購入した商品が今日届く予定なので、指定した時間にワクワクしながら自宅宅配便がくるのを待っています。でも、指定した時間になっても宅配便はきません。「友人^{とも}の誘い^{さそ}を断って待ってたのに……」とイライラしながら、宅配便の会社に電話してみました。すると、「今日、ドライバーがトラックを運転したくないいうものですから、また明日でお願いします。でも、明日かならずドライバーが仕事してくれるかどうかは不明ですが」とオウタイ^bに出た従業員が説明^cしたとしましょう。あなたは、こんな宅配業者に、今後、宅配を依頼^{いらい}するでしょうか。この宅配業者がギョウセキ不振^{しん}で倒産^{とうさん}するのも、時間の問題です。

社員が約束を守るかどうか、仕事してくれるかどうか不確かで、一時的にしか協力してくれないのでは、会社はたいへん困ります。そこで、なんとか一時的協力が持続可能な協力になるよう、工夫しなければなりません。^②では、どのような工夫があるでしょう。

わかりやすいものからいきましょう。まず、お金です。そもそも会社で働くという協力をする動機・理由の大半は、収入を得るためです。

※
日本のような資本主義社会においては、商品を購入するための資金がなければ、衣食住を満たすこともできません。ですから、協力しないと給料を下げるぞ、などと脅すこと^{おど}によって、協力を持続可能なものにしようとする^{ます}。

③
集団から排除^{はいじょ}するぞと脅すことが、持続可能性を高めることがあります。会社なら解雇^{げこ}、学校なら退学ですね。排除すると脅す方法が有効なのは、集団のメンバーになること自体、簡単ではないからです。

どこかのお店のポイント会員のようなメンバーには、簡単になります。氏名や住所などを申込用紙^{せうしんし}に記入すれば、すぐポイントカードが発行され、会員の仲間入りです。でも、集団のメンバーになった感じはしませんよね。ほかにだれがメンバーなのか、あなたは知りませんし。また、知る必要ありません。ポイント会員という集団のメンバー同士で協力して、なにかの目的を達成しようというわけではありませんから、そんな必要はないのです。

一方、会社組織は、利潤^{りじゆん}（利益）をあげることが目的です。この目的を達成するには、経営者と従業員の持続的な協力が必要です。だから経営者・雇用者は、なんらかのテストをしたり、面接で質問したりして、持続的に協力してくれそうな人を雇^{やと}います。雇われた側は、その会社のメンバーになりたくて、テストや面接に受かるよう努力したのですから、簡単にやめさせられたくはありません。だから、メンバーとしての資格を奪^{うば}うぞと脅すことは、持続的協力の可能性を高める方法として用いられます。

・給料を下げるとかメンバーとしての資格を奪って排除するといった方法は、相手にとって価値あるものを奪い取るというやり方です。処罰^{しよばつ}のような感じですね。

処罰的な方法を使って、メンバーに協力してもらっても、イヤイヤ協力してくれている感じです。そこが処罰的な方法の欠点です。いつも脅していないと、すぐ協力をサボりそうです。（Ⅰ）、リーダーも気が抜けません。あまり上手な方法とはいえませんね。

（Ⅱ）、メンバーが自主的、積極的に協力しようという気になってくれた方が、効率的です。そのためには、会社の場合であれば、給料を下げるぞと脅すより、協力すれば給料を上げるという方が効果的でしょう。（Ⅲ）、給料もそうそう上げられません。

自主的・積極的に協力させるには、境界を設定する方法もよく使われます。味方／敵、ウチ／ソト、われわれ／ヤツらにわけ[※]る境界を設定するのです。

境界設定の方法も、さまざまです。（Ⅳ）、[※]隠語^{いんご}の使用です。ちょっと古くて恥^はずかしいのですが、「チヨベリバ」という隠語が、女子高校生のあいだで流行^はった時期がありました。「チヨ・ベリー・バッド」を略し

たもので、「最悪」という意味を過剰に強調しようとすることばです。このことばを発明し最初に使いはじめた人たちのグループでは、「チョベリバ」は意味のあることばです。でも、グループ外の人たちには意味不明です。両者のあいだには、みえない境界線がひかれているようなものです。

このように、メンバーで協力して隠語を使用することは、この隠語がわかる「ウチら」とそれ以外の人たちとを区別する境界を設定します。

A 意識と、ちよつとした B 意識が、同時に生まれます。そして、隠語がわかる人たちは、わからない人たちよりユウイに立っている気分になって、ちよつと誇らしげになることでしょう。それがふたたびメンバー同士の協力の可能性を高めます。それと C するように、メンバー以外のひととの協力がなされる可能性を D ます。

そもそも、いったんある集団に所属して、メンバーと協力する経験をもつこと自体、隠語の使用と同じような効果を発揮します。というのも、協力の経験によって、その集団のメンバーにしか通用しない共通の話題ができるからです。それは、どんなささいなことがらでもいいのです。いや、むしろ、ささいなことほどいいでしょう。たとえば、職場であれば、朝礼で毎回おこなわれる社長のスピーチ、だれとだれが仲がいいとか悪いとかのうわさ話、事務手続きの面倒くささなど、その職場で働いたことのある人にしかわかりません。そもそも他の職場の人には、関心すらもない話題です。でも、同じ職場の人同士であれば、話が弾みます。

メンバーにしか通用しない共通の話題は、その集団が E 的にも閉じられていることによって、より生じやすくなります。通常、会社のような組織は、建物、塀、壁などの物体によって、他の会社、他の部課局からわけ隔てられています。関係者以外には、なにがおこなわれているのかみえないし、どんな話をしているのか聞

こえません。関係者にしか、それらは知りえません。物体も、ある特定のメンバーにしかわからない話題のセイに貢献しているわけです。

こうして、E 的にも閉じられた空間で、ある集団に所属し、くり返し協力する経験が増えると、メンバーのあいだにしか通用しない共通の話題が生まれ、隠語の使用同様、みえない境界を設定します。ほかの集団のメンバーにはわからない話題が通じる相手がいてくれると、居場所ができた感じがすることでしょう。そして、居場所を確保するために、自主的に協力するようになります。

(森真一『友だちは永遠じゃない 社会学でつながりを考える』より)

※ 資本主義社会……生産手段を持つ者が、労働者を雇って働かせ、利益を得るしくみを持つ社会。

※ 隠語……特定の仲間だけに通じる特別な語。

問1 次の文はもと本文中にあったものです。どこに戻すのがよいですか。この文の入る直後の五字をぬき出して答えなさい。

《この、協力の不確かさに、とても敏感になる人々がいます。》

問2 — ①は、ある古典作品の書き出し部分です。その作品名(X群)と作者(Y群)を次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|----|---------|---------|---------|----------|
| X群 | ア 『枕草子』 | イ 『徒然草』 | ウ 『方丈記』 | エ 『奥の細道』 |
| Y群 | ア 松尾芭蕉 | イ 鴨長明 | ウ 清少納言 | エ 兼好 |

問3 — ②「どのような工夫があるでしょう」とありますが、筆者が考える「工夫」は大きく分けて二つあります。その「工夫」のうち二つ目に書かれているのはどのようなことですか。十字以上十五字以内で答えなさい。

問4 — ③「集団から排除するぞと脅すこと」とありますが、この方法が効果的である理由について具体的に述べた六十字以上の一文を探し、最初の五字をぬき出しなさい。

問5 空欄 (I) (II) (III) (IV) にあてはまる語として適切なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号をくり返して選ぶことはできません。

- ア ところで イ むしろ ウ もし エ たとえば オ だから カ でも

問6 空欄 A B にあてはまる語の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|---|------|------|
| ア | A 閉鎖 | B 開放 |
| イ | A 平等 | B 差別 |
| ウ | A 連帯 | B 孤立 |
| エ | A 仲間 | B 敵対 |

問7 空欄 C D にあてはまる語の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|---|-------|------|
| ア | C 比例 | D 下げ |
| イ | C 比例 | D 上げ |
| ウ | C 反比例 | D 下げ |
| エ | C 反比例 | D 上げ |

問8 空欄 E (二カ所ある) にあてはまる語として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 機械 イ 感覚 ウ 理想 エ 物理 オ 根本

問9 次のア～オについて、本文の内容にあてはまるものを1、あてはまらないものを2として、それぞれ番号で答えなさい。(ただし、すべてを1、または2と答えた場合は得点になりません。)

ア 宅配便の実例は、協力の持続可能性を高めるためには、何よりも社員同士の信頼感が大切であることを示すためである。

イ 会社組織の経営者にとって、社員の持続的協力の可能性を高めるために、集団から排除すると脅す方法が時として有効である。

ウ 女子高生が隠語を使用するのと会社組織のなかで共通の話題が生まれるという両者には、似たような効果が見てとれる。

エ ポイント会員の事例は、会社組織が利益をあげることと目的として、メンバーの持続的協力を得ようと努力していることを示すためである。

オ 一般的に集団や組織にとって必要なのは自主的な協力であるから、経営者は職場においてさまざまな話題を提供するべきである。

問10 a e のカタカナを漢字に直しなさい。

次の文章は、原田マハ『生きるぼくら』の一節で、二十四歳で引きこもりだった麻生人生は、思い立って東京から信州蓼科の祖母のところに来ています。読んで、あとの問いに答えなさい。

① ばあちゃん、^①「稲作とお米の一生」について、昔話を語るように話し始めた。

あなたたち、^②宮沢賢治^{みやざわけんじ}って知ってる？ 「雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ」。そう、知ってるでしょう。賢治は、X 出身の童話作家で詩人なの。小中学校の教科書で取り上げられることも多いから、一度くらいは、この有名な一節を目にしたことがあるはずね。

賢治はね、すぐれた文学者だったんだけど、同時に、熱心な農業の研究者でもあったの。自分で品種改良を手がけて、^a寒くてキビしい気候でもたくましく生き延びるお米を作ろうと必死になったのよ。「雨ニモ負ケズ」は、^a彼の農業への情熱、農家の人々への思いの丈をぶつけた詩なのよ。あの詩を思い出すたびに、私も胸が震える気がするの。

時代が変わって、いろいろな技術が発達して、^③便利な機械もたくさんできたわ。昔のお百姓さんたちから見れば、いまの農家の人たちの稲作は、夢のように思えるかもしれないわね。

それでも、気候ばかりは人の力や知恵ではどうにもできないのは、昔もいまも同じでしょう。加えて、最近の農村の高齢化^{れい}。若者たちはどんどん都会へ出てしまし、いったん都会へ行ってしまうと家業の農業は継ぎ^つたがらない。両親も、農業は大変だからと子供に継がせようとし^bない。だから、シユウノウ人口は減る一方なのよ。

確かに、稲作なんて、いまの若い人たちが好きこのんでするような仕事ではないかもしれない。

私はよく知らないけれど、コンピュータなんかで、ぱっぱぱつと株を売ったり買ったりして、瞬くまにお金儲けする方法もあるのかしらね。

華やかな都会で、立派な会社で、名刺を持って働くのがいいとか、自分が好きなことを仕事にしたいとか、若い人たちはそんなふう考えているのかしら。

それは、もちろん、悪いことじゃないわ。そんなふうに通けるなら、そのほうがいいかもしれない。あなたたちも、ひよつとすると、実はそんな生活に憧れているのかもしれないわね。

でもね、私はいつも思うの。稲作って、ほんとうにすごい仕事よ。だって、どんな人であれ、日本人なら、お米が必要でしょう？ どんな職業の人でも、お年寄りでも若者でも子供でも、お金持ちでもそうでない人でも。私たち、みんな、ご飯が大好きでしょう？ そのお米を作る仕事。何よりすばらしいことなんじゃないかしら、って。

⑤ お米の一生は、なんだか、人の一生に似ているのよ。

最初は小さな種籾から始まるの。籾殻がついたままの、ひと粒の籾。それがやがて苗になり、穂が伸びて、いつぱいにお米が実る。ひと粒の籾から、四千粒のお米が実るのよ。

まず、早春に、種籾を発芽させて、苗を作るの。昔は、田んぼに苗床を作ったんだけど、天候に左右されることもあるから、最近は「箱苗」と言って、育苗用の箱の中に種籾を入れて、ビニールハウスなんかで育てることも多いわね。とにかく、これがお米にとっては揺りかごに入っているようなもの。春になってアタタくなれば、目を覚まして発芽するのよ。

四月になると、発芽した種籾は小さな苗に育つ。この季節は、苗の幼少期。農家の人たちは、やがて苗たちを迎えて立派な稲に育てるために、田んぼの準備を始めるのよ。昔ならクワやスキで、いまは耕耘機で、田んぼを耕す。それから、代かき。これは、苗を植えやすくするために、土と水をこねておく作業ね。昔はやっぱりクワや足を使ってやったんだけど、いまはトラクターの後ろに代かきローターというのをつけてやるんだそうよ。そうやって準備をして、さあよいよ田植えの季節がやってくる。この作業が、いわばお米作り前半のハイライトね。

⑥ お米の苗は、分けつとって、どんどん株を分けて育ていくの。分けつの始まった小さな苗を、土をつけたまますくいとって、田んぼの中に植えていくのよ。

昔は、ひとつひとつ苗を手で植えて、後ろへ後ろへと移動していく作業だったわ。それはもう、大変な作業量だから、村人総出でやらなければならなかった。作業を早く進めるために、笛を吹いたり太鼓を叩いたりして。着物の裾をはしった早乙女たちが、一生けんめい苗を植える。畦道で打ち鳴らす鉦や太鼓の音が、青空に響いている。なんともどかな風景が思い浮かぶでしょう。

いまは、田植機に苗をセットして、どんどん植えるのが普通になったわね。五月になると、あちこちの田んぼで田植機が動いているのが見えて、これもまた、日本の農村の風物詩のようになっていくわね。

⑦ 苗たちは、「田んぼ」という名の学校に上がった小学生のような感じ。文字通り「悪い虫」がつかないように、⑧ あるいは水田の水の温度が上がりすぎたり下がりすぎたりしないように、農家の人たちは、いつも注意深く見守っているのよ。

初夏からツユにかけては、苗はどんどん分けつして、すくすく育っていくの。葉っぱは青々として、丈もぐんと伸びる。七月頃の^{こころ}水田の風景は美しいわね。このあたりでも、八ヶ岳^{やがたけ}を背景に広がる水田の風景を見れば、目で深呼吸したような気分になるのよ。そうね、この頃の稲は^{こころ}青年期。青春時代そのままに、生き生きと、エネルギーに満ちて、生きることを謳歌[※]しているみたい。

そうして、真夏のさなかに、穂が出て、花が咲き、実を結ぶの。そう、稲たちは自然に結婚^{こん}をするわけ。秋風が吹き始める頃には、^{こがね}黄金色の稲穂に変わるのよ。子孫を残して、お米の一生は終わるの。その子孫たちを刈^かり取って、私たちは、ようやくお米を手にすることができるよう。

※ 人生もつぼみも、ばあちゃんの話にすっかり聴^きき入ってしまった。最初に口を開いたのはつぼみだった。

「うっわあ……すごい。おばあちゃん、すごいよ。すごい話術！」

人生は、いやいや、すごいのは話術以上に

Y と同等にはあちゃんの話し方もすばらしく魅力的^みだったから。

「おばあちゃん、ハンパなくいろんなこと知ってるんだね。昔のことからいまのことまで、お米についてはなんでも。……あ、ひよつとして、米オタク？」

「オタク？」ばあちゃんがきょとして訊^きき返した。宮沢賢治の詩はそらんじられても、「オタク」の文字はばあちゃんの辞書にはないようだ。

「もともと、この家は農家だったしね。ああ、そう、私ね、この家へお嫁^{よめ}に来るまえは、松本で小学校の先生を

していたのよ」

ばあちゃんが教師だったとは、まったくの初耳だった。どうりで、ハンパなくいろんなことを知っているわけだ。米作りなんて、若者が敬遠^⑨してしまいそうな話をかみ砕^{くだ}いて教えようとするところなども、なるほど小学校の先生をしていたと聞けば納得^{なっとく}できる。加えて、ばあちゃんの包みこむようなやさしい声が、お伽^{とぎ}噺^{ばな}を聞いているような心地^{こころ}よさをもたらすのだ。

「私の夫はね。やっぱり、このあたりで小学校の先生をしていて。長野県教育委員会の集まりで知り合って、ここへお嫁入りすることになったの」

これも初耳だ。わあ、とまたつぼみが声を上げた。

「いいなあ、その語感。『お嫁入り』」

ばあちゃんは、あら、と少し赤くなった。

「まあ、とにかく。私もこの家へ嫁^{よめ}いでから、米作りに挑^{ちか}戦したのよ。お義父^とさんお義母^{かあ}さんに手ほどきを受けて、見よう見まねで手伝ってみたら、なんだか楽しくなっちゃって」

ばあちゃんは、昔を思い出したのか、ふふふ、と小さな声で笑った。

「その頃にはもう田植え用の機械とかあったの？」

人生が訊くと、

「かなり旧式のものがあつたわね」

ばあちゃんが答えた。

「でも、長靴で泥の中に入って、ひとつひとつ手で植えていく昔ながらのやり方を、私はまず教わったの。いずれ機械を使うにしても、昔の人がどんなふうに苦勞して、どんなふうに楽しんで田植えや稲刈りをしたか、一度全部手作業でやってみなさい、ってお義母さんに言われたの」

「それって、いわゆる『嫁いびり』とかだったりして」

つぼみが意地悪なことを言った。

⑩「しんどい作業をどこまでできるか試したのかもよ。それでだめなら松本へ帰れとか言うつもりだったのかも」

「おあいにくさま。米作りは楽しくって仕方がなかったんですからね。かえってここにいきちゃったわ」

ばあちゃんが楽しげな口調で返した。

「そうそう、田植えをするまえに、畦塗りっていう作業があるんだけどね。これも昔は村人総出でやったものよ。あの作業もきつかったけど、楽しかった」

田んぼに張った水が漏れないように、田んぼの周囲の土を練って塗り固めるのが「畦塗り」という作業なのだそう。クワの先で土を崩しながら、練り上げて塗っていく。左官の作業のようなものらしい。

ばあちゃんが話してくれる米作りの作業は、どれをとってもおもしろそうに感じられる。「代かき」「畦塗り」などと聞くと、どこかしら牧歌的な、のどかな響きのせいか、いかにも楽しい作業のように想像してしまうのだ。子供の頃にも、ばあちゃんが教えてくれる庭や家の仕事は、たとえそれが水撒きであっても、たまらなくわくわくするものだった。

ばあちゃんは、どんなことであれ、幼い孫が興味を持つことをどんどんやらせた。さすがに薪割りは無理だった

だが、かまどの火の番、障子の張り替え、囲炉裏で炭を燃やすこと、それに畳返しのようなことまで手伝った記憶がある。

少年というのはタンジュンな生き物だ。適度に体を動かして、汗ばんで、息を弾ませていられれば、それだけで嬉しいのだ。それが大好きな大人の役に立つのであれば、なおさら。

⑪ばあちゃんの話聞きながら、少年だった頃、大人を手伝ってわくわくしたあの感じが蘇ってきた。

米作りかあ。なんか、おもしろそうだな。

「米作りって、なんか、おもしろそう」

人生が心の中でつぶやいたことを、つぼみがそっくりそのまま口に出して言った。

「あたし、手伝ってみたいな。ねえ、おばあちゃん、それって無理かな？」

つぼみが唐突に申し出た。その言葉に、人生は少なからず驚いてしまった。

おれも、ばあちゃんを手伝って、米を作ってみたい。

ばあちゃんの話聞きながら、たまらなくむずむずする感じを、人生は胸の中に募らせていた。けれど、言っ
てしまっただけに引けない気もした。実際やってみたらあまりにも大変で、途中で逃げ出すようなことにな
ったら格好悪い。

「おい、ちょっと待てよ」

人生は、思わずつぼみを制した。

「そんなに簡単にやってみたいと言っちゃっていいのかよ。米作りって、遊びじゃないし。すっげえ大変だぞ」

「何よ。あんた、やったことあんの？」

つぼみがじろりとにらむ。そう言われれば返す言葉がない。

※ ハイライト……最も盛り上がる場面。見せ場。

※ 分けつ……根に近い茎の節から枝分かれすること。

※ 早乙女……田植えをする少女。

※ 謳歌……心おきなく楽しむこと。

※ つぼみ……中村つぼみ。人生の義理の妹。人生より先に祖母宅に滞在しており、人生とはそこで初めて会った。

※ 左官……壁を塗る職人。

問1 a e のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 ①「ばあちゃん」の話によれば、田植えの前に、田を耕すこと以外に田んぼでする作業が二つあります。それは何ですか。本文中からぬき出しなさい。

問3 ②「宮沢賢治」の作品を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 坊っちゃん イ 伊豆の踊子 ウ 高瀬舟 エ 銀河鉄道の夜

問4 空欄 X に入る語を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 新潟県 イ 岩手県 ウ 高知県 エ 静岡県

問5 ③「便利な機械」で本文中に登場するものを、四つぬき出して答えなさい。

問6 ④「そんな生活」とはどんな生活ですか。四十字以上五十字以内で答えなさい。

問7 ⑤「お米の一生は、なんだか、人の一生に似ているのよ」とありますが、どんなところが「似ている」のですか。本文にそくして三十五字以上四十字以内で答えなさい。

問 8 ——— ⑥・⑦・⑨の意味として最も適切なものを、次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

⑥「左右される」 ア 一喜一憂する イ 影響される ウ 困惑させられる エ 促進される

⑦「風物詩」 ア 季節の感じをよくあらわしている物事。 イ 毎年行われている地元の祭り。

ウ 地域の特徴があらわれている事柄。 エ 村の人々の心のよりどころ。

⑨「敬遠して」 ア 最初から拒絶して イ 何となくいやがつて

ウ 意識的に避けて エ 無条件に感心して

問 9 ——— ⑧「文字通り「悪い虫」がつかないように」とありますが、なぜ「文字通り」と言うのですか。その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 普通は「悪い虫」を植物にとつての害虫に用いることが多いが、ここは悪い人間を指すから。

イ 普通は「悪い虫」を人に対する悪口に用いることが多いが、ここは稲に有害な鳥獣を指すから。

ウ 普通は「悪い虫」を自然にとつて有害な人間に用いることが多いが、ここは自然の虫を指すから。

エ 普通は「悪い虫」をたとえとして人間に用いることが多いが、ここは苗にとつての害虫を指すから。

問 10 空欄 Y (二カ所ある) に入る語として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 声色 イ 表情 ウ 内容 エ 熱意

問 11 ——— ⑩「おあいにくさま」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 手作業の農作業は楽しかったが、義母がそれを命じたのはまさしく「嫁いびり」だったということ。

イ 義母に命じられた手作業の農作業は楽しく、残念ながら「嫁いびり」にあてはまらないということ。

ウ 手作業の農作業はとてもつらく、義母がそれを命じたのはなるほど「嫁いびり」だったということ。

エ 義母は「嫁いびり」ではなく親切心から手作業の農作業を命じ、それは幸い楽しかったということ。

問 12 ——— ⑪「米作りかあ。なんか、おもしろそうだな」は心の中の言葉です。なぜすぐに口に出して言わなかったのですか。その理由を三十五字以上四十字以内で答えなさい。

得	点
※	

1000 2000 3000 4000 5000 6000

--	--

--	--

問

1

100 200 300 400 500 600

1

